

令和 2 年 5 月 1 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02360

研究課題名(和文) アジア圏英語学習者自然対話コーパスICNALE-Dialogue開発と分析

研究課題名(英文) Development of ICNALE-Dialogue: Analysis of L2 English Learners' Spoken Dialogues

研究代表者

石川 慎一郎 (Ishikawa, Shin'ichiro)

神戸大学・大学教育推進機構・教授

研究者番号：90320994

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：アジア圏10か国・地域の学習者及び英語母語話者425名の統制インタビュー発話を収集したICNALE (International Corpus Network of Asian Learners of English) Spoken Dialogueを開発・公開した。本コーパスは、アジア圏学習者を対象とした物として世界最大級で、トランスクリプトとビデオを同時公開している点でもユニークなデータである。また、本データを使用し、アジア圏学習者の交渉における語彙使用の特徴分析、交渉局面における男女話者の言語使用の際の解明などを行い、その成果を著書(分担執筆)・論文として発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本科学研究費プロジェクトの成果は、(1)Oral Proficiency Interviewを参考にした独自のインタビュータスクセットの開発、(2)世界最大級のアジア圏英語学習者対話コーパスの開発、(3)トランスクリプトとビデオ動画の全面公開、(4)収集したデータを活用したL2英語学習者の言語使用傾向の分析、の4点にまとめられる。独話を集めた学習者話し言葉コーパスはすでにいくつか存在していたが、インタビュー発話(対話)を集めたものは、ベルギーで開発されたLINDSEIを除くとほとんど存在せず、本研究でリリースされたデータセットは、世界のL2学習者コーパス研究に大きなインパクトを持つと期待される。

研究成果の概要(英文)：In this project, I compiled and released The ICNALE (International Corpus Network of Asian Learners of English) Spoken Dialogue, which is a new dataset including the utterances of L2 English learners in ten countries and regions in Asia as well as English native speakers during the task-controlled interviews. This is one of the largest L2 learner interview corpora ever compiled. I analyzed various patterns seen in Asian learners' use of the vocabulary in negotiation role-plays and I also scrutinized the gender differences of Japanese learners. The results of these analyses were reported in journal papers as well as book chapters. The ICNALE Spoken Dialogue is now available online.

研究分野：応用言語学

キーワード：学習者コーパス 発話 対話 交渉 計量的語彙研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本人英語学習者の最大の課題は発話力の絶対的不足である(石川, 2016)。L2 発話力は独話力と対話力に区分できるが、世界的に見ても、従来の L2 学習者の発話の研究は独話の分析に偏りがちであった。

筆者は、以前より開発しているアジア圏英語学習者コーパス(ICNALE: International Corpus Network of Asian Learners of English)において、すでにモノローグのデータを収集・公開していたが(ICNALE Spoken Dialogue)、対話のデータはまったく未収集であった。

こうした背景の中、従来、実証データに基づく日本人英語学習者の L2 対話力の分析研究はほとんどなされておらず、英語における対話力や「やりとり」の力の重要性が叫ばれる一方、日本人英語学習者の実態把握はきわめて不完全な状態にあった。

こうした実態を変えるためには、ICNALE を拡張し、日本人を含むアジア圏学習者の対話データを体系的に収集することが必要であると考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本を含むアジア圏 10 か国及び英語圏において、同一トピックに基づく学習者・母語話者の自然対話を体系的に収集し、世界最大のアジア圏学習者自然対話コーパス ICNALE Spoken Dialogue を開発することであった。そして、開発したコーパスに基づき、各国学習者の L2 対話における言語特徴並びに会話方略使用特性を解明し、今後のアジアの英語教育改善のための基礎資料を提供することが目指された。

3. 研究の方法

本研究課題においては、(1)インタビュータスクセットの開発、(2)アジア圏学習者対話データ収集、(3)収集対話データの質的・量的分析、(4)サポートオンラインシステムの開発という 4 つの具体的な作業モジュールが設定された。

4. 研究成果

2017~2019 年度までの 3 年間の研究期間において、上述の (1)については、ICNALE の 2 種の共通トピック(大学生アルバイトの是非/レストラン全面禁煙の是非)と連動させながら、自由対話・絵描写・ロールプレイを組み合わせたタスクセットを開発した。また、L2/L1 の産出比較ができるよう、L1 質疑タスクを組み込んだ(図 1)。

The ICNALE SD Interview Structure	
Task	Content
<i>Introduction (Icebreaking)</i>	
Introduction	An interviewee answers easy questions about his/her English learning.
<i>Part-time Job Task Set</i>	
Picture Description	The interviewee describes six serial pictures about a boy having a part-time job at a computer shop to earn money to go swimming with his friends.
PD-related QA	The interviewee answers questions about the contents of the pictures (swimming and computers) and gives an opinion on the college students' use of smartphones.
Role-play	The interviewee plays the role of a college student wishing to continue his/her part-time job. The interviewee is told to persuade his/her supervisor, who firmly believes that students should not have part-time jobs, to allow him/her to continue working.
RP-related QA	The interviewee answers questions related to the topic of the role-play (part-time jobs) and gives an opinion on the college students' part-time jobs.
<i>Non-smoking Task Set</i>	
Picture Description	The interviewee describes six serial pictures about a mother with her son, who tells a nearby smoker to stop smoking in the park.
PD-related QA	The interviewee answers questions about the contents of the pictures (a park and the depicted woman) and gives an opinion about the cleanness of public parks.
Role-play	The interviewee plays the role of a customer who had a meal with his/her friend at a restaurant that allows smoking. The interviewee is told to persuade a restaurant owner to refund his/her money because his/her friend could not enjoy the meal due to too much smoking.
RP-related QA	The interviewee answers questions related to the topic of the role-play (restaurants) and gives an opinion on the ban on smoking at restaurants.
<i>Reflection</i>	
L2 Reflection	The interviewee answers questions about the whole interview.
L1 Reflection	The interviewee answers questions about different tasks in the interview in his/her L1.

図 1 ICNALE Spoken Dialogue のタスクセット (Ishikawa 2019 より転載)

(2)については、アジア圏 10 か国・地域の学習者及び英語母語話者総勢 425 名を集め、これらに個々にインタビューを実施し、160 万語のデータを体系的に収集した(図 2)。



図 2 ICNALE Spoken Dialogue で収集された各国学習者ビデオデータ(Ishikawa 2019 より転載)

(3)については、タスクタイプ別に語彙や文法の使用状況を調査し、各種の論文として発表した。また、男女差や動機づけの差といった話者要因の影響度について実証分析を行った。下記は、日本人大学生の説得型ロールプレイタスク発話中の高頻度 50 語を手掛かりとして、低習熟度女性群、中習熟度女性群、高習熟度女性群、低習熟度男性群、中習熟度男性群、高習熟度男性群の 6 群の関係性をモデル化したものである。この分析では、習熟度よりも性差のほうが学習者の対話中での語彙使用をより強く特徴づけている可能性が示唆された(図 3)。

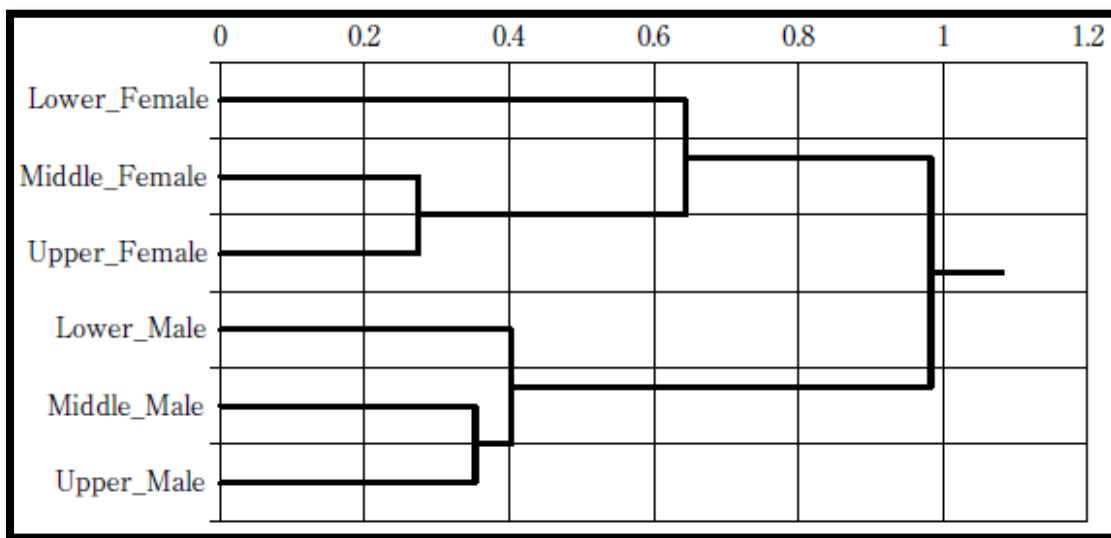


図 3 ICNALE Spoken Dialogue の説得型ロールプレイにおける高頻度上位 50 語の学習者グループ別使用状況(クラスター分析に基づく樹形図)(Ishikawa 2020 より転載)

(4)について、収集したデータは、トランスクリプト(品詞タグ付与)・ビデオ動画の2種の媒体で公開し、世界の研究者がそれぞれの研究目的に応じて利用できるようにした。また、ICNALE Online システムに、Spoken Dialogue 専用のオンライン検索環境を構築し、ユーザーがオンラインで検索を行えるようにデータ整備を行った(図4)。

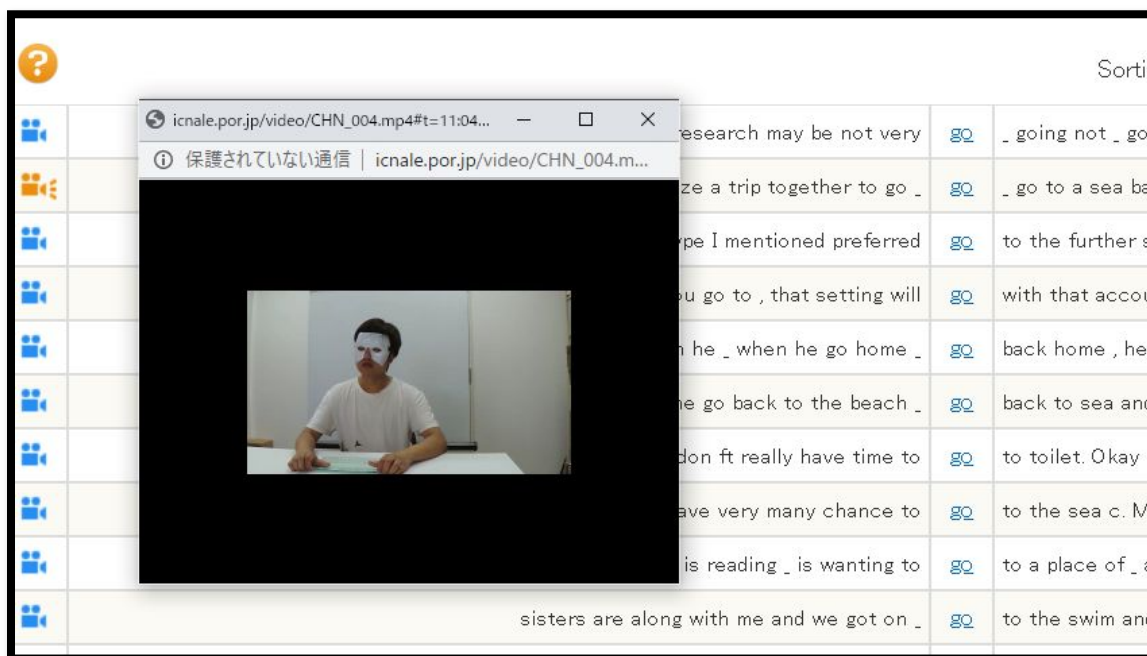


図4 ICNALE OnlineでのSpoken Dialogueデータ検索結果画面(中国語学習者のインタビュー中での“go”使用例を悉皆検索し、当該箇所をビデオで連動表示させたところ)

以上の研究成果は、論文等としても発表した。3年間の研究期間(2017~2019年度)において、科研テーマに関連して、論文23本、著書(共著書含む)7冊が公刊された。また、52件の招待講演・研究発表を実施した。(詳細は下記を参照)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 2
2. 論文標題 人手校閲及び自動校閲による学習者英作文の修訂結果の比較 ICNALE Edited Essaysのデータを用いて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Corpus-based Lexicology Studies (英語コーパス学会語彙研究会)	6. 最初と最後の頁 31-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81011990	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 435
2. 論文標題 日本語自然対話における丁寧体否定形「ナイデス」「マセン」の選択 BTSJコーパスを用いた検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 統計数理研究所共同研究リポート435: 言語テキストの内的構造に対する数理的アプローチ	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 74(4)
2. 論文標題 The ICNALE Spoken Dialogue: A new dataset for the study of Asian learners' performance in L2 English interviews	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 English Teaching (Korean Association of Teachers of English)	6. 最初と最後の頁 153-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 n/a
2. 論文標題 習得研究の資料としての学習者コーパスの可能性と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第30回第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会予稿集	6. 最初と最後の頁 106-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 7
2. 論文標題 小学校の「外国語活動」を6年間にわたって継続した場合の児童の英語語彙力（音声理解力・文字理解力）の変容プロセス 偶発的語彙学習の効果と制約	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大学英語教育学会東アジア英語教育研究会紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 n/a
2. 論文標題 コーパス調査に基づく「文体・位相・語感」の記述の可能性 日本語学習者のための発信型辞書の開発を見据えて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 語彙・辞書研究会第56回研究発表会予稿集（三省堂）	6. 最初と最後の頁 8-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 12(4)
2. 論文標題 英語学習者コーパス研究の現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Fundamental Review（電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ誌）	6. 最初と最後の頁 280-289
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1587/essfr.12.4_280	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 7(2)
2. 論文標題 A Reconsideration of the Construct of "A Vocabulary for Japanese Learners of English": A Critical Comparison of the JACET Wordlists and New General Service Lists	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Vocabulary Learning and Instruction (JALT Vocabulary SIG)	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Shin'ichiro ISHIKAWA	4. 巻 NA
2. 論文標題 S-genitives and Of-genitives Seen in English Native/ Non-native Speakers' Essays: A Study Based on the ICNALE Written Essays	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC2018), Takamatsu, Japan, September 17-19, 2018	6. 最初と最後の頁 166-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin'ichiro ISHIKAWA	4. 巻 8(4)
2. 論文標題 Comparison of three kinds of alternative essay-rating methods to the ESL Composition Profile	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Computer-Assisted Language Learning and Teaching	6. 最初と最後の頁 32-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4018/IJCALLT.2018100103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin'ichiro ISHIKAWA	4. 巻 1
2. 論文標題 A Critical Survey of JACET English Word Lists: Reconsideration of the Validity of the Frequency Integration Method	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Corpus-based Lexicology Studies	6. 最初と最後の頁 53-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81010588	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 12
2. 論文標題 「わたしはマイク・ミラーです」を再考する：日本語コーパスの教育応用をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高知大学留学生教育	6. 最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 NA
2. 論文標題 中国語母語の日本語学習者の発話における使用語彙の変遷：発達段階の差と個体の差をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第4回学習者コーパス・ワークショップ&シンポジウム「第2言語習得における語彙の役割」予稿集（国立国語研究所）	6. 最初と最後の頁 62-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 414
2. 論文標題 現代日本語発話における男女話者による文末詞の使用 BTSJコーパスを用いた大学生発話の計量分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 統計数理研究所共同研究リポート	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 82
2. 論文標題 答えのない時代を生き抜く力をつける：英語指導で培うキーコンピタンス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 チャートネットワーク（数研出版）	6. 最初と最後の頁 4-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 n/a
2. 論文標題 コーパスと英語教育：語彙・語法文法・産出指導へのコーパスの寄与	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 今尾康裕他（編）『英語教育徹底リフレッシュ：グローバル化と21世紀型の教育』（開拓社）	6. 最初と最後の頁 14-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 n/a
2. 論文標題 A Corpus-based Study of the Size and the Level of the Vocabulary Used by Japanese Learners of English at Different Proficiency Levels	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京外国語大学国際ワークショップ予稿集「外国語教育の変革：国際連携・高大連携・ICT」2017	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 2
2. 論文標題 A Reconsideration of the Needed Sample Size in Learner Corpus Studies "	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国立国語研究所言語資源活用ワークショップ発表論文集	6. 最初と最後の頁 153-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.15084/00001516	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 20
2. 論文標題 Learners' Acquisition and Use of L2 Japanese Vocabulary: Influence of L1 Backgrounds and L2 Proficiency Levels: A Learner Corpus-based Analysis	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第2言語としての日本語の習得研究(第二言語習得研究会/凡人社)	6. 最初と最後の頁 10-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 145
2. 論文標題 How L2 Learners' Critical Thinking Ability Influences Their L2 Performance: A Statistical Approach	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Advances in Social Science, Education and Humanities Research	6. 最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi:10.2991/iconelt-17.2018.17	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 3
2. 論文標題 The ICNALE Spoken Dialogueの設計 対話におけるL2口頭産出研究のために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Learner Corpus Studies in Asia and the World	6. 最初と最後の頁 9-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81010115	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 400
2. 論文標題 L2日本語語彙の習得プロセスについて LARPコーパスに見る台湾人学習者による日本語作文の縦断分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 統計数理研究所共同研究レポート	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 n/a
2. 論文標題 上級英語学術語彙表 “BABYLON 2000” の開発 6つの理念に基づく新しいEGAP 語彙選定の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 石川有香(編)『ESP語彙研究の地平』	6. 最初と最後の頁 2-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計52件(うち招待講演 28件/うち国際学会 21件)

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 L2 Fluency and Body Language Use of Asian Learners of English A Study Based on the ICNALE Spoken Dialogue
3. 学会等名 2019 Joint Conference of Linguistic Societies in Korea & JWLLP-26(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 I-JAS/ C-JASを用いた習得研究の展望：個体データをどう扱うか
3. 学会等名 神戸大学石川科研 2019年度第1回研究会「コーパスと日本語教育」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 『BTSJ自然会話コーパス』を用いた 話者属性研究の方法について 男女大学生の文末詞使用を例に
3. 学会等名 国立国語研究所 第1回 語用論コーパス科研成果発表会 『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 学習者コーパスの展開とSLA研究 L2 speechコーパスを中心に
3. 学会等名 神戸大学石川科研 2019年度第2回研究会「SLAと学習者コーパス」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Learner Corpus Studies and TESOL in Asia The ICNALE Project
3. 学会等名 2019 Joint International Conference on English Teaching and Learning in Korea（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 My Recent Research
3. 学会等名 ESRC-AHRC UK-Japan SSH Connection Grant Meeting “New methods and data in second language learning research” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 小学校英語における語彙 選定・評価・指導システムの開発
3. 学会等名 大学英語教育学会 (JACET) 第199回東アジア英語教育研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Asian Learners' L2 Oral Production in Monologues and Dialogues
3. 学会等名 GloCALL2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Japanese learners' grammar control in L2 English writing and two modes of speaking A comparison with learners in Taiwan, Thailand, and Indonesia
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 JACET8000: The history and the prospect
3. 学会等名 大学英語教育学会第58回国際大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 DAL in College English Classes
3. 学会等名 大学英語教育学会第58回国際大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 母語話者および学習者による日本語丁寧体否定の形態選択
3. 学会等名 統計数理研究所言語系共同研究グループ夏季合同発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 New perspectives on contrastive interlanguage analysis: An outline of the ICNALE project
3. 学会等名 ESRC-AHRC/ LCSAW Joint Conference 2019(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Gazing into a crystal ball Future of CL in Japan
3. 学会等名 英語コーパス学会第45回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 コーパス調査に基づく「文体・位相・語感」の記述の可能性 日本語学習者のための発信型辞書の開発を見据えて "
3. 学会等名 第56回語彙・辞書研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 "学習者コーパスの歴史 - 学習者のL2 使用を総体としてとらえるために - "
3. 学会等名 ロシア語教育研究集会2019（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Task Influence on Learner Speeches: An Analysis of the ICNALE Spoken Dialogue Module "
3. 学会等名 The 28th Joint Workshop on Linguistics and Language Processing（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 "L2の発信力って結局なんなのだろう 学習者コーパス研究の10 余年をふりかえって "
3. 学会等名 日英言語文化学会第73回定例研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 "習得研究の資料としてのLCの可能性と課題 規模の制約と一般化の制約をめぐって "
3. 学会等名 第二言語習得研究会（JASLA）第30回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 学習者作文の誤り検出：Grammarly(R)と人間の校閲者を比較して
3. 学会等名 英語コーパス学会語彙研究会 2019年度研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Gender Gap Seen in L2 Persuasion Role-Plays
3. 学会等名 The 17th International Conference on Language, Education, Humanities, and Innovation (ICLEHI) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 日本人英語学習者のロールプレイ発話に見る性差－計量分析の視点から－
3. 学会等名 名古屋工業大学石川有香科研公開シンポジウム Gender and English Education (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 TIO (Target-Input-Output) 連動分析で見るL2英語n-gram
3. 学会等名 英語コーパス学会春季研究会語彙研究会特別シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin'ichiro ISHIKAWA
2. 発表標題 Aspects of L2 Learners' English Speeches: A Study Based on the ICNALE
3. 学会等名 The 21st Conference of the Oriental COCOSDA (International Committee for the Co-ordination and Standardisation of Speech Databases and Assessment Techniques) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 日本語・日本語教育研究の新視点 - コーパスから得られる言語事実を立脚点として -
3. 学会等名 高知大学国際連携推進センター主催平成30年度講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 コーパスを用いた新しいIEAP語彙リストの開発：BABYLONプロジェクトの背景と狙い
3. 学会等名 大学英語教育学会東アジア英語教育研究会188回研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 日本人英語学習者のL2発信技能：学習者コーパスに基づくアジア圏国際比較の視点から
3. 学会等名 外国語教育メディア学会第58回全国研究大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin'ichiro ISHIKAWA
2. 発表標題 A Learner-corpus-based Study on the Relationship between Learners' L1s and The Quality of Their L2 English Essays
3. 学会等名 GloCALL2018/ 15th China CALL Conference Joint Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 地域・媒体による単語生起頻度の変化：語彙表作成のための頻度データ合成法の再考
3. 学会等名 英語コーパス学会語彙研究会夏季シンポジウム2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin'ichiro ISHIKAWA
2. 発表標題 Differences between Japanese Learners of English and English Native Speakers in the Oral Picture Description Tasks
3. 学会等名 全国英語教育学会第44回京都大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin'ichiro ISHIKAWA
2. 発表標題 How do Japanese L2 Learners of English Persuade Others in English? A Learner Corpus-based Study
3. 学会等名 The 6th International Conference on New Trends in English Language Teaching and Testing (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin'ichiro ISHIKAWA
2. 発表標題 A Reconsideration of the Construct of "A Vocabulary for Japanese Learners of English": A Critical Comparison of the JACET Wordlists and New General Service Lists
3. 学会等名 2018 JALT Vocabulary SIG Symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin'ichiro ISHIKAWA
2. 発表標題 S-genitives and Of-genitives Seen in L2 English Learners' Essays: A Study Based on the ICNALE Written Essays
3. 学会等名 The Asia Pacific Corpus Linguistics Association (APCLC) 4th Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin'ichiro ISHIKAWA
2. 発表標題 Do male students require and female students accept? : The Gender Gap Seen in L2 English Persuasions by Japanese Learners of English
3. 学会等名 The 2nd Women in TESOL International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 日本語・日本語教育研究者のためのコーパス入門 ～計量的言語研究の魅力と課題～
3. 学会等名 東京外国語大学大学院国際日本学研究院 日本語教育専攻学生のための研究セミナー (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 L2語彙力の発達をどう見取るか？どう数えるか？
3. 学会等名 第四回 学習者コーパス・ワークショップ & シンポジウム 第二言語習得における語彙の役割 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 コーパスで外国語教育はどう変わるか：「未来志向の日本語教育」のためにコーパスができること
3. 学会等名 筑波大学 CEGLOC 日本語・日本事情遠隔教育拠点シンポジウム「未来志向の日本語教育」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田 亮 / 石川 慎一郎 / 乾 健太郎
2. 発表標題 解説文生成研究のためのライティング技術解説付き学習者コーパス
3. 学会等名 言語処理学会第25回年次大会 (NLP2019)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 言葉を数えてわかることとわからないこと - 新しい日本語教育の創造のためにコーパスができること -
3. 学会等名 中国語話者のための日本語教育研究会第44回研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 現代日本語発話における男女話者による文末詞の使用 BTSJコーパスを用いた大学生発話の計量分析
3. 学会等名 統計数理研究所言語系共同研究グループ合同研究発表会「言語研究と統計2019」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin'ichiro ISHIKAWA
2. 発表標題 Fluency in L1, L2, and Body Language: A New Approach to L2 Learner Fluency
3. 学会等名 Bilingualism Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Japanese Learners' L2 English Outputs
3. 学会等名 国際ワークショップ「外国語教育の変革：国際連携・高大連携・ICT」2017（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 ICNALE独話・対話モジュールの開発と活用 変数としての発話モード
3. 学会等名 Learner Corpus Studies in Asia and the World 2017（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 ワークショップ：学習者コーパス研究入門：日本語学習者・英語学習者のL2産出をどう評価するか
3. 学会等名 第57回（2017年度）外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 日本語研究の新しい視点：コーパスが明らかにする言語事実
3. 学会等名 第9回日中対照言語学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 学習者コーパス研究における標本数の問題
3. 学会等名 言語資源活用ワークショップ2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 How learners' L2 English Essays Are Edited
3. 学会等名 The Globalization and Localization in Computer-Assisted Language Learning (GLoCALL) Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 A Frontier in Learner Corpus Studies: For Better Understanding of L2 Learners
3. 学会等名 英語コーパス学会第27回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 L2学習者の「文体」 学習者コーパス分析からの知見
3. 学会等名 日本文体論学会第112回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Evaluation of Learners' L2 English Essays: Comparison of Three Approaches
3. 学会等名 International Conference on ESP, New Technologies and Digital Learning (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Quantitative Approach to Aspects of L2 English Use by Learners: A Study Based on Learner Corpora
3. 学会等名 The 2nd NTU-Kobe Joint Workshop on Data Science (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 A Study on the Relationship between L2 Fluency and L2 Proficiency of Japanese Learners of English
3. 学会等名 Focus on Language 2018 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 【編著】迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬 【著】全8名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 255
3. 書名 『学習者コーパスI-JASハンドブック：研究・教育にどう使うか』	

1. 著者名 【編】石川有香 / 【著】江利川春雄・石川慎一郎・森住衛他 全9名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大学教育出版	5. 総ページ数 264
3. 書名 『ジェンダーと英語教育：学際的アプローチ』	

1. 著者名 【編】石川慎一郎【著】Randy Appel / Ishikawa Shin'ichiro / 他 / 全6名 (第1著者)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸大学	5. 総ページ数 124
3. 書名 『Learner Corpus Studies in Asia and the World Vol.4』	

1. 著者名 李 在鎬 / 石川 慎一郎 / 砂川 有里子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 『新：日本語教育のためのコーパス調査入門』	

1. 著者名 【編】仁科 恭徳 / 吉村 由佳 / 吉川祐介【著】赤野 一郎 / 有吉 淳一郎 / 石川 慎一郎 / 他全25名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 373
3. 書名 『言語分析のフロンティア』	

1. 著者名 【編】影山 太郎 / 岸本 秀樹 【著】石川 慎一郎 / 益岡 隆志 / 他全12名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 229
3. 書名 『レキシコン研究の新たなアプローチ』	

1. 著者名 【編】林 創 / 神戸大学附属中等教育学校【著】林 創 / 石川 慎一郎 / 岩見 理華 / 他全9名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学事書房	5. 総ページ数 217
3. 書名 『探究の力を育む課題研究：中等教育における新しい学びの実践』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>The ICNALE Official Site http://language.sakura.ne.jp/icnale/ The ICNALE Online http://language.sakura.ne.jp/icnale/icnale_online.html 神戸大学石川慎一郎研究室科研プロジェクト（基盤B）進捗報告 http://iskwshin.blogspot.jp/2017/05/201751-31_20.html</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考